



6月！花と緑と雨！地震も洪水も！世界のどこにいても、気を付けてくださいね。平和のためにできることをしています。あなたも？平和になってほしいですね！

Popoki's Hot News!



NEW

ロニー・アレキサンダー編著

『ポーポキのマスクギャラリー ～コロナ禍でアートを通して

日常の安心を探る～』神戸大学出版会 2022.2.22 発行

「一言の平和」コーナー



ポーポキのお友だちきよにゃんは、次の「一言の平和」を送ってくれました。

あなたが大切な人を支えてあげる事は大切な事です。
しかし、それは、あなたの心と体が元気でないとできません。
今は、辛いことや悲しいことがたくさんあるかも知れません。
いざという時に、大切な人を守れるように自分を大切にしてください。

ポーポキはその手段のひとつかも知れませんね。

明日も素敵な1日になりますように。

あなたは今日、どんな「平和」に出会いましたか？ぜひお聞かせください。

ポーポキのメール [ronniandpopoki \(at\) gmail.com](mailto:ronniandpopoki(at)gmail.com) !

ポーポキ@あすパーク子どもリビング

ポーポキ (ほにゃん)

5月10日、ポーポキは「こどもリビング」に行きました。神戸市灘区の大和公園の中に「あすパーク」という小さなおうちがあり、そこで「こどもリビング」の活動が行われています。毎週火曜日の放課後に10名ほどの小学生が集まり、楽しい時間を過ごしています。午後2時半頃に、学校が終わった子どもたちがランドセルを背負って次々にやってきます。子どもたちはまず宿題をします。それから「もぐもぐタイム」でおやつを食べます。宿題もおやつもさっさと済ませて、公園で遊びまわる子供もいます。3時10分に「あすパーQ」が始まります。毎週、異なるテーマでお話やクイズ、工作や実験みたいなものをします。紙飛行機を作って、どうすれば遠くに飛ぶのかを試したり、「靴飛ばし」の競争もします。ドバイからのビデオレターを見て、うちわを作ってドバイの人に贈ったこともあります。

ポーポキは「平和って何色？」の紙芝居をしました。「学校に行けるのは平和？」「猫語と人間語、人間語にもいろいろな言葉があるけど、皆同じ言葉をしゃべる必要はある？」などを考えました。子どものほとんどは「同じ言葉を話す必要はない」と答えました。「ボールがあれば言葉はいらない」と言う子もいました。言葉はとても大切、でも大切なことは他にもある。子どもたちはそのことを知っているのだ、とポーポキは思いました。

この日、ポーポキと一緒に「こどもリビング」に行ったのは、ろにゃん、さとにゃん、てしがわらにゃんでした。次の訪問は8月5日です。一緒に行きたい人は知らせてください。



Popoki's Video Gallery

ポーポキの動画をぜひみてください！

ポーポキのマスクギャラリー～新型コロナウイルス感染拡大を生きる

<https://www.youtube.com/watch?v=BjT1ZjVUsm8&t=3s>

ポーポキのおうち

<https://www.youtube.com/watch?v=l8OCzg64oH8>

ポーポキと一緒に平和のパクパクをつくりましょう！

<https://youtu.be/FoT4pCWWRnQ>

ポーポキのピースマップ

<https://youtu.be/4t4PFV-dRBg>

ロニー・アレキサンダーの最終講義（ポーポキではないが、お許しください）

「大きな夢と小さな島々～30年間でふりかえって、そして明日へ」

<https://youtu.be/trbxJSP7-CY>

日本平和学会 関西地区研究会主催 <ウクライナ戦争への視座——平和学から考える> 「私たちが見ていないもの、そしてモヤモヤ感」

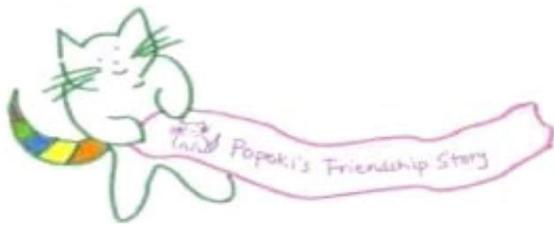
語り手 安斎郁郎、ロニー・アレキサンダー

聞き手 奥本京子、遠藤あかり

<https://www.psj.org/chiku-kansai/> からユーチューブへ

英語だけど、ESPN
のミニシリーズ
'Title IX'も観て！ろ
にゃんは第2部に
登場！





Popoki's Interview

やらにゃん

*最近、いろいろな場所でパンデミックを体験している
ポーポキの友だちに状況を聞くことにしています。今回、

やらにゃんがモザンビークにいる姪にコロナのことを聞いてくれました。

.....
こんにちは！私の名前はヤラで、姪のエルスカ・ルイス・ロマをインタビューしました。新型コロナウィルス感染拡大が始まってからの生活や将来について聞きました。

Q// 自分自身のことについて教えてください。

- 私の名前はエルスカ・ルイス・ロマです。私は8歳で小学校3年生です。

-

Q// 大きくなったら、なにになりたいですか？それはどうしてですか？

- 科学者になりたいです。なぜなら、世界がよくなり、人々の助けになるようなものを創りたいからです。

-

Q// 好きな活動は？

- 水泳が好きです。幼稚園のときに泳ぎ始めましたが、コロナのためにやめなければなりませんでした。できなくて寂しいです。パンデミックが終われば、再開したいです。

-

Q// パンデミックのことは知っていますね。

- はい、COVID-19は人々を病気にするし、マスクを使わなければならない。学校でだって、私たちは中でも外でもマスクを使わなければなりません。

Q// パンデミックについて、どう思いますか？

- 最初は、大したことではないと思いました。私はいつもマスクをして、出歩くときはアルコールを持って、そして手を洗う。特に心配する理由はないけど、病気になるのはコワイです。テレビで人々が病気になっているというニュースは頻繁にあるけれど、それがコワイです。

-

Q// 学校ではパンデミックのことについて話しますか？

- ときどき... 先生は、マスクをつけるようにと指導します。同級生の一人はマスクが嫌いなので、いつも外します。先生はいつも、着用するように注意します。

Q// 入学してからマスクを着用していますか？

- いいえ、2年生の時からです。でも、しない方が好きです。マスクをつけていると暑くなるし、とても不快になるので、時々外します。

Q// 学校で授業はオンラインですか。それとも対面？どちらが好き？

- 対面もオンラインもしましたが、対面のほうが好きです。先生はよりよく説明してくれるからです。オンラインだと、友だちをつくるのが難しい。

Q// 学校が対面になったので、友だちとどのようにして遊びますか？

- お話することしか許されていない。一緒に遊んではいけない。それと、休憩時間に読む本を配ってくれます。

Q// パンデミックは、あなたの友だち関係に影響を及ぼしたと思いますか？友だちをつくる能力のほうは？

- いくらかね。友だちに何かをあげたり受け取ったりすると、すべてのものを消毒しないとイケない。それが面倒で、友だちになにも共有したくなくなってしまいます。

-

Q// パンデミックが終わったら、何がしたい？

- マスクをすとかアルコールを持つとかいつも手を洗うとかをしなくても出歩くことがしたい。海にも行きたいし、泳ぎたい。それと、グラウンドで友だちと一緒に遊ぶこと。

-

Q// モザンビークについて教えてください。

- とても良いです！私はここで生まれ、自分の国が大好きです。人々はとてもやさしいし、食べ物はとってもおいしい。ここの暑いお天気も大好きですが、寒いのが嫌いです。

Q// 読者のみなさんへのメッセージはありますか？

- より良い将来を実現するために、他の人を助けてください。それは、私たちみんなをしあわせにしてくれることです。





ポーポキちゃんの簡単ポガ教室

Lesson 170 今月のテーマは、腰を鍛える！



1. まず、いつものように、美しく座りましょう。
2. では、あお向けになりましょう。膝を曲げて、頭や肩を床に残して、腰を上げましょう。息を5回ほど大きく吸ってから下ろしましょう。5回繰り返しましょう。
3. 次は、先と同じポーズをつくってから、片足を上げましょう。キープできますか。息を5回ほど大きく吸って…。5回繰り返してから反対の足もどうぞ！
4. さて、今度は、座って、前へ足を伸ばしましょう。前へストレッチ！5回ほど息を大きく吸ってね。
5. できてもできなくてもがんばりましたね。では、「できたポーズ」をどうぞ！お疲れ様でした。少しリラックスできましたか？毎日、深呼吸・笑・リラックス、そしてポガを最低3分間練習しましょうね。

一緒にいかが？



次回のポー会：2022年7月26日 Zoom会議 19:00～*

***リンクが毎回同じ。必要な方はメールでポーポキに聞いてくださいね

- ・8月3日 15:00-17:00 多文化共生セミナー で平和を考えるワークショップ (zoom)
- ・8月5日 子どもリングで平和を考えるWSパート2
- ・8月9日 08:00-09:30 核を考えるワークショップ(zoom)
- ・10月??? 灘チャレンジ!
- ・10月22日? 平和と健康ワークショップ

ポーポキの友だちからのおすすめの本等

- ・『りょうくんのすすむみちー学校に行けない君たちへー』作・絵 かねしろ みゆき、学研 2019年。
- ・大槌町『生きる証 岩手県大槌町 東日本大震災記録誌』監修:大槌町教育委員会ほか。2019.7
- ・アレキサンダー ロニー&桂木聡子 (2020) 「被災体験後「今」を表現する：絵から読み取れる被災ナラティブ」『国際協力論集』27(2)、17-32 (2020年1月発行) http://www.lib.kobe-u.ac.jp/infolib/meta_pub/detail
- ・Alexander, Ronni (2021) "The Meaning of Art in Disaster Support: Stories from the Popoki Peace Project," *Journal of International Cooperation Studies*, 28(2), 1-22. http://www.lib.kobe-u.ac.jp/infolib/meta_pub/detail
- ・Alexander, Ronni (2022) "Art-stories as reflection: Learning from the Popoki Peace Project," *Journal of International Cooperation Studies*, 29(2), 27-51. <http://www.research.kobe-u.ac.jp/gsics-publication/jics/>

ポーポキ・ピース・プロジェクト <http://popoki.cruisejapan.com> ・ [ronniandpopoki\(at\)gmail.com](mailto:ronniandpopoki@gmail.com)

アマゾンで買えるよ!

全編日英対照

神戸大学出版会

ポーポキの マスクギャラリー

～コロナ禍でアートを通して
日常の安心を探る～

編著・絵 ロニー・アレキサンダー

Written, edited and illustrated by Ronni Alexander



令和4年3月
発売!!

A5判・192ページ
定価 2,420円 (税込)

【本書の内容】

前書き

第一部：ことばの旅

「ことばの旅」への誘い

第二部：「お絵描き」の旅

- ① 物語を描くということ
- ② くちゃくちゃ
- ③ 色たち
- ④ いかなきゅ(桂木聡子)
- ⑤ 2021.1.17 に想う
- ⑥ 乱れ
- ⑦ プール

第三部：「ふりかえり」の旅

「ふりかえり」の旅

- ① ポーポキのマスクギャラリー — 基盤となる日本人の伝統的思考法を考える—(高田西)
Popoki's Mask Gallery — A consideration based on traditional Japanese ways of thinking (Takada Satoshi)
- ② 対談：アナ・アガサングロウとロニー・アレキサンダー(世界国際関係学会年次研究大会2021年)
Conversation: Anna Agathangelou and Ronni Alexander (International Studies Association Annual Conference 2021)
- ③ ポーポキの旅: ポーポキのマスクギャラリーができるまでの道のり(ロニー・アレキサンダー)
Popoki's Journey: How Popoki's mask gallery came to be (Ronni Alexander)

後書き：新たな旅

今度はあなた

Prologue

Part I: A Word Journey

An Invitation to take a Word Journey

Part II: A Drawing Journey

The Meaning of Drawing Stories

All Messed Up

Colors

I've Gotta Go (Katsuragi Satoko)

Thoughts on 17 January 2021

Confusion

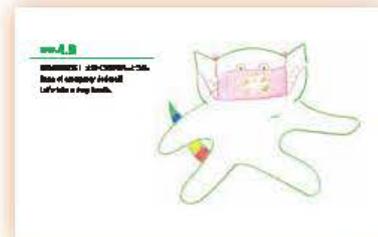
Pool

Part III: A Journey of Reflection

A Journey of Reflection

Epilogue: A New Journey

Now it is Your Turn



本文より抜粋



発行：神戸大学出版会 <https://www.org.kobe-u.ac.jp/kupress/>

神戸市灘区六甲台町2-1 神戸大学社会科学系図書館内 Tel. 078-803-7315 Fax. 078-361-7320

発売：神戸新聞総合出版センター

神戸市中央区東川崎町1丁目5-7 神戸情報文化ビル9F Tel. 078-362-7138 Fax. 078-361-7552

第19回 多文化共生のための 国際理解教育・開発教育 オンラインセミナー

共に生きる地球社会の実現に向けて、
国際理解教育・開発教育の実践セミナーを開催します。

対象者：

国際理解教育・開発教育に興味のある教職員、
学校関係者、学生、高校生

参加費無料

2022年

8月2日(火) 基調講演	13:05-14:35 / 分科会①	15:00-16:30
8月3日(水) 分科会②	13:00-14:30 / 分科会③	15:00-16:30
8月4日(木) 分科会④	13:00-14:30 / 分科会⑤	15:00-16:30
8月5日(金) 分科会⑥	13:00-14:30 / 分科会⑦	15:00-16:30

開催形式：オンライン（Zoom）

※ご参加にはインターネットに接続できる機器・環境が必要です
※グループワークの際は環境の許す限りカメラをONにしてご参加ください

締 切：7月26日（火）

※基調講演、各分科会の定員に達した場合は個々に締め切ります

申 込：URL <https://forms.office.com/r/3BAarExADg> または右のQRコード
よりお申込みフォームにアクセスいただき、必要事項をご記入の上お申込み
ください。※QRコードがご利用になれない場合はメールに

①お名前 ②ふりがな ③属性（教職員・学校関係者・学生・高校生・その他）

④所属 ⑤メールアドレス ⑥電話番号 ⑦参加ご希望の回（基調講演、分科会①～⑦）

（※複数回申込可）をご記入の上、jicaksic-renkei@jica.go.jp（川崎）までお送りください。

問 合 せ： JICA関西 市民参加協力課 担当 川崎（かわさき） TEL：070-8714-7707

お申込みフォーム
QRコード



共催：兵庫県教育委員会、神戸市教育委員会、
公益財団法人神戸YMCA、公益財団法人PHD協会、
公益財団法人アジア福祉教育財団難民事業本部、
独立行政法人国際協力機構関西センター（JICA関西）



私たちは 持続可能な開発目標
(SDGs) を支援しています

プログラム	8月2日 (火)	13:00-13:05 開会
		13:05-14:35 基調講演 分野:SDGs、ESD、探求 探究の高度化・探究の自律化～「国連・ESDの10年」の経験を踏まえ、SDGsの本質を活かす 【定員】100名(先着) 【講師】東京都市大学大学院 環境情報学研究所 教授 佐藤 真久 【内容】学習指導要領の改訂に伴い、今日の学校現場では、総合的探究の拡充や探究活動の高度化・自律化への関心が高まっています。本講演では、「国連・ESDの10年」の経験や、SDGsの本質を掘り下げ、参加者との議論を通じてこれらの関心と理解を深めます。
		14:35- 団体紹介
		15:00-16:30 分科会① 分野:SDGs、多文化共生、ダイバーシティ すべての人が幸せに暮らすための「心構え」「ダイバーシティ」ってなんだろう？ 【定員】50名(先着) 【講師】東京都市大学大学院 環境情報学研究所 教授 佐藤 真久 【内容】2021年度に『SDGsダイバーシティBOOK』(宣伝会議)が全国小中高35,000校に配布されました。本分科会では、教材を紹介しながら参加者と「SDGs」や「ダイバーシティ」また日本の社会課題について学び、学校現場での教材活用方法について議論を深めていきます。※可能であれば、『SDGsダイバーシティBOOK』を事前にご一読・または手元にご準備の上参加ください。
		『SDGsダイバーシティBOOK』QRコード 
	8月3日 (水)	13:00-14:30 分科会② 分野:国際理解 全教科で育む国際理解力 【定員】40名(先着) 【講師】神戸市立摩耶小学校 黒田 智広 【内容】日常生活で外国語を使う必要性の少ない日本において、様々な場面で「外国って意外と身近な所にあるんだな。」と感じられる気づきを与えることはとても大切だと思います。教科や単元、指導の流れにとらわれることなく、気軽に取り入れられる実践例や年間指導計画を紹介します。
		15:00-16:30 分科会③ 分野:平和 ねこのポーポキと一緒に安全・安心を考え、平和をつくりましょう 【定員】20名(先着) 【講師】神戸大学名誉教授 ポーポキ・ピース・プロジェクト代表 ロニーアレキサンダー 【内容】「平和って何色？安心は？」平和そのものやそれを妨げるものについて問いかけるバイリンガルな猫、ポーポキ。その平和には安心が必要？一人ひとりの安心をイメージし、積極的な平和づくりを目的とする参加型ワークショップです。
	8月4日 (木)	13:00-14:30 分科会④ 分野:多文化共生 『豊かに共生する心』を育む 【定員】50名(先着) 【講師】兵庫県教育委員会事務局人権教育課 子ども多文化共生センター 主任指導主事 高橋 智子 【内容】県内の子ども多文化共生教育にかかる現状と課題を理解するとともに、どうすればすべての児童生徒に『豊かに共生する心』を育むことができるのか、2学期の授業実践をふまえて考えます。
		15:00-16:30 分科会⑤ 分野:難民 ワークショップで考える難民問題 【定員】50名(先着) 【講師】難民事業本部関西支部 中尾 秀一 【内容】あなたの家族が難民になったらどうしますか。難民とはどのような人で、避難民とはどう違うのか、難民の定義や避難しなければならぬ原因、難民の身に降りかかる困難について、教室ですぐに使えるシンプルな手法で考えます。
	8月5日 (金)	13:00-14:30 分科会⑥ 分野:学習支援、外国ルーツの子ども 外国ルーツの子ども達への教科学習支援 【定員】30名(先着) 【講師】NPO法人多文化センターまんまるあかし副理事長・日本語教師 櫻江 茂樹 【内容】日本の学校で学ぶとき、外国にルーツを持つ子ども達はどのような課題と向き合っているのか、どう対応すればよいのか、まんまるあかしで行っている教科学習支援活動を通じて感じたところを事例を交えながら紹介します。また、「やさしい日本語」を使ったコミュニケーションにもチャレンジします。※グループワークの際は原則カメラONでご参加ください。
		15:00-16:30 分科会⑦ 分野:多文化共生、国際理解 JICA関西 教師国内研修 授業実践報告会 「SDGsの達成に向けて、私たちに何ができるか-地域の多文化共生から考える-」 【定員】50名(先着) 【講師】2021年度 JICA関西教師国内研修 参加教員 【内容】JICA関西が「地域の多文化共生」を題材に実施した「教師国内研修」参加者による、授業実践報告会を行います。小学校・中学校・高等学校・大学の先生方が「多文化共生」をテーマに、児童・生徒の皆さんへ何を伝えたのか？ぜひ当日にお確かめください！

- ロニー、アレキサンダー、桂木、聡子、勅使河原、君江 「被災者の多様で個別的な安心についてお絵描きを通して思索する活動」 『神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要』15(2) 53-65 2022-03-30 JaLCDOI 10.24546/81013202
- アレキサンダー&桂木 「被災体験後「今」を表現する：絵から読み取れる被災ナラティブ」国際協力論集 27(2) 2020.2 pp.17-32. JaLCDOI 10.24546/81011967
- 「ポーポキのミニ平和映画祭」「こくしのみど52」『神戸青年・Kobe YMCA News』No.652 2017.7-8
- ESD Digital Archives, Kansai Council of Organizations for International Exchange <http://www.interpeople.or.jp>
- 関西国際交流団体協議会の「デジタルアーカイブ(WEB版の事例集)にポーポキ! <http://www.interpeople.or.jp>
- 『平和を考える絵本出版 被災者支援きっかけに』『神戸新聞』(貝原加奈 2014.4.25 28面)
- 「ボランティア37団体に助成 大和証券福祉財団」『神戸新聞』(2013.8.23 朝刊 地域経済 8面)
- 「原爆の熱線で焼き付いた―“人影”再現、非核誓う」『神戸新聞』(2013.8.7 朝刊 22面)
- 「被災 秘めた思い描いて」「ひとと抄」『読売新聞』(2013.2.16 夕刊 4面)
- 広岩近広 『安全』『安心』の社会は足元から、ロニー・アレキサンダーインタビュー 『毎日新聞』2012.10.29 (「今、平和を語る」、夕刊、1面)
- R. Alexander. “Remembering Hiroshima: Bio-Politics, Popoki and Sensual Expressions of War.” *International Feminist Journal of Politics*. Vol.14:2:202-222, June 2012
- 「ポーポキと一緒に作り出す平和の根底に9条がある」NO:66 2012年5月12日[子どもと守る9条の会]
- 「布に希望 60メートル」阿久沢悦子 『朝日新聞』2012.1.21 (兵庫・29面)
- 「平和祈る声まとめ本に」斎藤雅志 『神戸新聞』2012.1.19 (伝える1・17 3・11、22面)
- K. Wada. “Conversations with Ronni Alexander: The Popoki Peace Project; Popoki, What Color is Peae? Popoki, What Color is Friendship?” *International Feminist Journal of Politics* Vol.13, No.2, 2011, 257-263
- S. McLaren. “The Art of Healing” (Popoki Friendship Story Project) *Kansai Scene*. Issue 133, June 2011, p.10. kansaiscene.com
- R. Alexander. (2010) “The Popoki Peace Project: Creating New Spaces for Peace in Demenchonok, E., ed. *Philosophy after Hiroshima*. Cambridge Scholars Publishing, pp.399-418
- 「省窓」『神戸青年』No.606 2011.1.2 p.1
- No.1 『ポーポキ、平和って、なに色?』の背後にあるもの(連載)とさぼりライフ第19号 2010.10:4
- 堀越健志「シリーズ:こくさいのまで⑤(パレスチナについて)『神戸青年』No.604 2010.9-10
- 「みんなでやれば、何にかが変わる!」THE YMCA No.607 June 2010, p.1
- [ヒロシマと世界: 被爆地の声 非核と平和、復興と再生、許しと命の尊厳訴え] http://www.hiroshimapeacemedia.jp/mediacenter/article.php?story=20100312140608602_ja
- 2010.3.15 中国新聞 ヒロシマ平和メディアセンター
- FM COCOLO 76.5 ‘Heart Lines’ 2010.1.9 Interview: Ronni on Popoki in Palestine
- “Human Rights, Popoki and Bare Life.” *In Factis Pax Journal of Peace Education and Social Justice* Vol.3, No.1, 2009, pp.46-63 (<http://www.infactispax.org/journal/>)
- 西出郁代 「ポーポキ、平和って、なに色?ロニー・アレキサンダーを迎えて」『PPSEAWA』(日本汎太平洋東南アジア婦人協会) No.63 2009.12, p.5.
- 「友情」第2号 2009.11 伊丹市国際・平和交流協会 年間事業報告 pp.1-2
- 「ともに・・・」No.29 2010.1 家庭と保育所、学校園、地域を結ぶ在日外国人教育情報誌 ポーポキ・ピース・チャレンジ情報 p.12
- 区民情報誌「なだ」2009.12, p.2. ポーポキ・ピース・チャレンジ情報。
- 『「ポーポキ、友情って、なに色?」』『私のいち押し』奥田光子 THE GAIDAI 2009.7.17 No.243 (関西外大通 信)
- 「友情って・・・考える絵本」朝日新聞「生活」(阿久沢悦子) 2009.7.2
- 「友情を考えて人間と、ねこと、そして自分と～」れ組通信 RST/ALN 2009.6.28 No. 259, p.11
- 「カティング・エッジ」第35号 2009.6 (北九州市立男女共同参画センター「ムーブ」)「新刊紹介:『ポーポキ、友情って、なに色?ポーポキのピース・ブック2』(レベッカ・ジェニスン) p.3
- 「猫を通して平和を考える 絵本の第2弾を出版」(斎藤雅志) 神戸新聞 2009.4.21
- 「ポーポキ、平和ってなに色?」KOBE YMCA NEWS「神戸青年」2009.3.1 No.593 p.2
- 「ポーポキ、ゴミってなに色?」KOBE YMCA NEWS「神戸青年」2009.1.1 No. 592 p.2
- 「友だちになってくれませんか?」RST/ALN 2009.2.22
- ラジオ番組の中のポーポキ!!!プロジェクト・メンバーの宇留賀佳代子さんがラジオ番組で紹介してくださいました。ぜひお聞きくださいね。 <http://www.kizzna.fm/> 録音番組。(リンクは現在無効)
- やさしいから人なんです展パート20 実行委員会『世界人権宣言』ひょうご部落解放・人権研究所 2008.10 500円。詳しくは: blrhyg@osk33web.ne.jp
- 「KFAW カレッジ ロニー・アレキサンダー氏 講演会」エイジアン・ブリーズ/Asian Breeze No.54 October 2008, p.8 (アジア女性交流・研究フォーラム)



私にとってポーポキ

「世界」と「平和」： 「花はどこへ行った」

まさやん

ポーポキ、ろにゃん、お元気の様子何よりです。ぼくは神戸大学を定年退職してから8年が過ぎました。今、目の前にある状況に（それは多分、切り取られた一部だけですが）、国際法を研究してきた者として、戸惑うばかりです。作家の池澤夏樹さんから教えていただいたこと（間接的にですが）、それは、ロシア語では「平和」と「世界」が同じМИР（ミール）という言葉だということ、今も歌い継がれてるフォークソング（プロテストソング）、「花はどこへ行った」”Where have all the flowers gone”は、ウクライナとロシアの国境地帯から生まれたこと。「いったいつになったら学ぶのか？」”When will they ever learn”、と問い掛けています。古代スラブ人にとって「世界」は「戦争のない状態」だったという説もあるそうです。

「花はどこへ行った」の問い掛けから、ドイツ帝国宰相ビスマルクの言葉が思い出されます。「我々が歴史から学ぶのは、誰も歴史から学ばないということである」、この言葉が、今、妙に説得的に思えます。私たちは「戦争の歴史」から何も学んでこなかったのではないか、第二次大戦後も世界のあちこちで戦火が絶えません。しかし、考古学者は言います。「人類の出現から450万年、戦いの歴史は8000年。4.5mの中の8ミリ。戦争は人間がおこすものであるから、人間が捨て去ることができる」（佐原真）。人類は、「歴史を学び」ながら、行きつ戻りつしつつ、20世紀になって初めて戦争の違法化にたどりついたはずです。それは確かなことです。しかし、二度と取り返しが見つからないことがあります。核兵器、気候危機、地球そのものの滅亡。

ポーポキ、君は「SDGs」のことを良く知っているよね。毎日のようにあちこちで目にするSDGs。環境、貧困などと結び付けて。でもSDGsを「軍縮」と結びつけたものを見たことがありますか。SDGsには、国連の創設以来の長い物語があります。国連は、「寛容を実行し、且つ、善良な隣人として平和に生活し、」「国際の平和及び安全を維持するためにわれらの力をあわせる」ことを決意して（国連憲章前文）創設されました。1945年6月24日のことです。米国による人類史上初の核実験（トリニティ実験）が行われたのは7月16日、つまり国連憲章の起草者たちは核兵器の存在すら知りませんでした。国連は51の加盟国で出発しました。その後、国連総会決議「世界人権宣言」（1948年）は、人権の尊重が普遍的であることを確認し、「植民地独立付与宣言」（1960年）は、国際法上の自決権の確立に重要な役割を果たしました。現在、国連加盟国が、193カ国になったのには、これらの国連総会決議の後押しがあったからです。しかし、発展途上国は、政治的独立を達成したものの、経済的には自立できませんでした。なぜなのか？先進国主導の国際（経済）秩序は、途上国を従属的な地位にとどめ置くだけではないのか？SDGsに導く長い物語の始まりでした。その過程で、地球環境に大きな関心が集まるようになります。

ここでその長い物語を話すことはできません。1986年に採択された「発展の権利宣言」は、自立を求める途上国の声が高潮に達した国連総会決議でした。「国際の平和及び安全は、発展の権利の実現にとって不可欠の要素である・・・軍縮と発展の間には密接な関係があること、軍縮の分野における進歩は、発展の分野における進歩を大きく促進するであろうこと」を高らかに宣言しました。「平和」「軍縮」「発展」は密接不可分であることの確認です。2017年に採択された「核兵器禁止条約」は、「国際の平和及び安全の確立及び維持が世界の人的及び経済的資源を軍備のために転用することを最小限にして促進されなければならないことを想起し」と、「軍縮」には消極的に言及しています。

さて、SDGsを知るためには、まずMDGs（ミレニアム開発目標）を知らなければなりません。なぜなら、SDGsの目標とターゲットは、「MDGsが達成できなかったものを全うすることを目指すもの」

だからです。MDGsは「平和、安全および軍縮」の項目の中で、「過去10年間に500万人以上の命を奪った、国内或いは国家間の戦禍から人々を解放するため、いかなる努力も惜しまない」とし、「大量破壊兵器（核兵器廃絶にも言及）がもたらす危険を根絶することを追求」するなど、軍縮を大きく扱っています。SDGsは、「平和」について、「持続可能な開発は、平和と安全なくしては実現できない。同時に、平和と安全は、持続可能な開発なくしては危機に瀕するだろう」（前文）といます。しかしながら、「宣言」中、「大量破壊兵器」「核兵器」「軍縮」「軍備管理」の言葉はどこにも見当たりません。「平和と安全」について次のようにいいます。「持続可能な開発は、平和と安全なくしては実現できない。同時に、平和と安全は、持続可能な開発なくしては危機に瀕するだろう。」と述べつつ、「新アジェンダにおいては、不平等さ、腐敗、貧弱な統治、不正な資金や武器の取引といった暴力、不安及び不正義を引き起こす要因に焦点が当てられている。」とだけいいます。「武器の取引」一言だけ！MDGsからの大きな後退といわなければなりません。ぜひMDGsとSDGsを読み比べてください。

この大いなる「後退」がなぜ起こったのか、研究生活から遠く離れたぼくには突き止める気力もありません。ただ、いつのまにか、国際社会が「軍縮」を目指すのではなく、「対立と脅威」をあり、「軍拡」を競うようになってきていると思わざるを得ません。「軍縮と発展は密接な関係がある」がゆえに、軍拡は途上国の「発展」をますます困難にさせてしまいます。否、途上国だけでなく、先進国自身をも蝕んでいきます。「我々は、極端な貧困を含む、あらゆる形態と規模の貧困を撲滅することが最大の地球規模の課題」（前文）であると高らかに宣言したSDGsは、大いなる矛盾を抱え込んでいるのです。

「いったい、いつになったら学ぶのか」、「いつになったら、戦争のない世界が訪れるのか」、「花はどこへ行った」を口ずさんでいます。

写真：まさにゃん、神戸大学の院生とろにゃん @グアム/グアム島で自決権を発揮するための努力について学ぶスタディーツアー。





ポーポキ・ピース・プロジェクトは、『ポーポキ、平和って、なに色？ポーポキのピース・ブック1』（エピック、2007年）、『ポーポキ、友情って、なに色？ポーポキのピース・ブック2』（エピック、2009年）、『ポーポキ、元気って、なに色？ポーポキのピース・ブック 3』を題材に、全身で平和の意味を探り、一人ひとりの「発見」を平和の創造に役立てようとする小さな平和活動団体です。また、2011年に起こった東日本大震災をきっかけに活動しており、『ポーポキ友情物語 東日本大震災で生まれた私たちの平和の旅』という本を2012年1月に発行しました。2006年に設立されて以来、日本国内外で幅広く平和のためのワークショップなどの開催を続けてきました。活動の資金はすべて本の売上や寄付によって行っています。

これからも平和を考えるためのピース・ワークショップ、読み聞かせ、ピースキャンプ参加、ポーポキのピース・ブックの翻訳（『ピース・ブック1』は既に10カ国語に翻訳されている）、『ポーポキのピース・ブック3』の執筆などの活動を中心に活動を続ける予定です。定期例会「ポー会」を月に一度のペースで開催しています。一緒に活動なされたい方はぜひご参加ください。（ポー会の開催については、ポーポキ通信の「一緒にどうぞ」の欄をご参照されたい。）

また、こういった活動に対してのご協力、ご支援をぜひお願いしたいと存じます。本の購入・寄付・本についてのコメント、感想、注文などについては、popokipeace@gmail.comへ お問い合わせください。

なお、本についての問い合わせや注文は、お近くの書店、アマゾン、あるいはエピック（TEL: 078-241-7561・FAX: 078-241-1918）へどうぞ。

ポーポキ・ピース・プロジェクト [popokipeace\(at\)gmail.com](mailto:popokipeace(at)gmail.com)



<http://popoki.cruisejapan.com>

郵便振替口座番号 00920-4-280350

ゆうちょ銀行 店番099 店名099店 当座 口座番号0280350

口座名 ポーポキ・ピース・プロジェクト神戸

ポーポキ平和募金は一口 1500 円 何口でも結構です。



THANK YOU FROM POPOKI!